

連絡先

病院名 国立がん研究センター中央病院

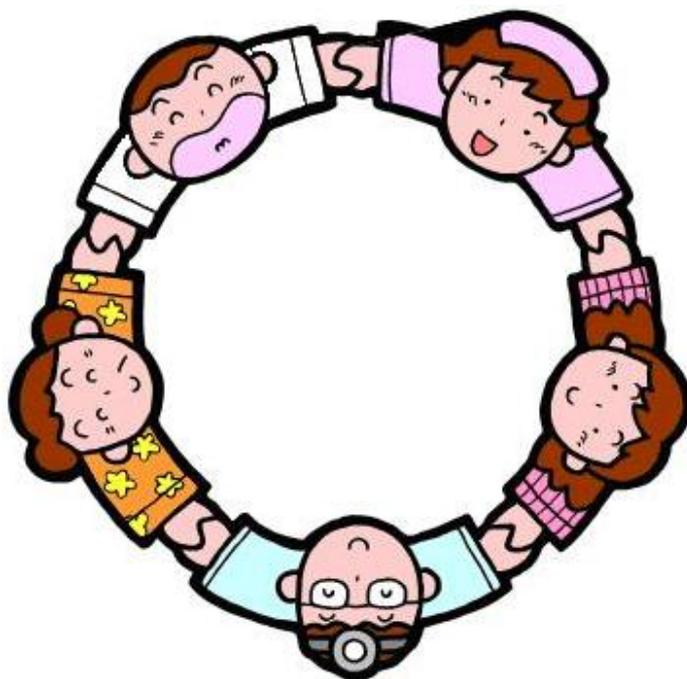
電話番号 03-3542-2511

担当医師

担当薬剤師

監修 肝胆膵内科
肝胆膵内科・薬剤部・看護部
2014.12 作成

ゲムシタビン・ナブパクリタキセル 併用療法を 受けられる患者さんへ



2014年12月

国立がん研究センター中央病院
肝胆膵内科・薬剤部・看護部

はじめに

膵がんの治療には、主なものとして外科療法・放射線療法・化学療法(抗がん剤)の3つがあります。がんの進行度と全身状態などを考慮して、このうちのひとつ、あるいはこれらを組み合わせた治療が行われます。化学療法は、内服薬や注射薬によって抗がん剤を全身へいきわたらせ、がん細胞の増殖や進展を抑える全身的な治療です。ゲムシタビン・ナブパクリタキセル併用療法は膵がんの効果を示すといわれている治療法です。

抗がん剤は、がん細胞だけでなく、体の正常な細胞にも作用し、副作用となって現れます。しかし、副作用は薬の種類によっても異なりますし、現れ方は個人差がありますので、症状の種類や強さの現れ方は人によって異なります。抗がん剤治療を受けるにあたり、副作用の種類とその予防法や対処法をよく知り、副作用を防いだり、症状を軽くしたりすることで、安心して日常生活を送ることは大切です。

この小冊子には、ゲムシタビン・ナブパクリタキセル併用療法について、薬の内容や起こりうる副作用の種類とその対策についてまとめてあります。これから抗がん剤治療を受けられる皆様が、安心して治療を受けられるために、この小冊子を役立てていただければ幸いです。

国立がん研究センター中央病院
肝胆膵内科
薬剤部
看護部

ゲムシタビンとは

ゲムシタビンは、点滴で行う治療薬です。がん細胞の増殖に必要な物質とよく似た構造をしているため、がん細胞の中に取り込まれて効果を発揮します。がん細胞の DNA に入り込み、細胞分裂に必要な DNA の合成を阻害してがん細胞を死滅させ、がんの分裂や増殖を抑えます。

ナブパクリタキセルとは

ナブパクリタキセルは、パクリタキセルという抗がん剤にアルブミンというたんぱく質を結合させた薬剤で、従来のパクリタキセルと比べ添加物による過敏症を抑え、点滴時間を短縮することが可能になりました。細胞が分裂する際に必要な細胞構成成分の一つである微小管を過剰発現させることにより、がん細胞の増殖を阻害します。



抗がん剤の治療は、がん細胞を殺すだけではなく、がんを小さくしたり増殖を遅らせたりすることで、がんによる症状を緩和し、治療を受ける方々の“**生活の質**”をよりよくすることも重要な目的の1つです。

副作用とその対策

抗がん剤は、がん細胞だけではなく、正常な細胞にも作用するため、副作用がしばしば現れることがあります。副作用には自覚症状があるもの、検査を受けなければ気づかないような自覚症状がないものがあります。

治療は、体の状態をみながら、効果と副作用のバランスを考えて進めるので、体の異常を感じる場合は必ずご相談ください。

予想される主な副作用

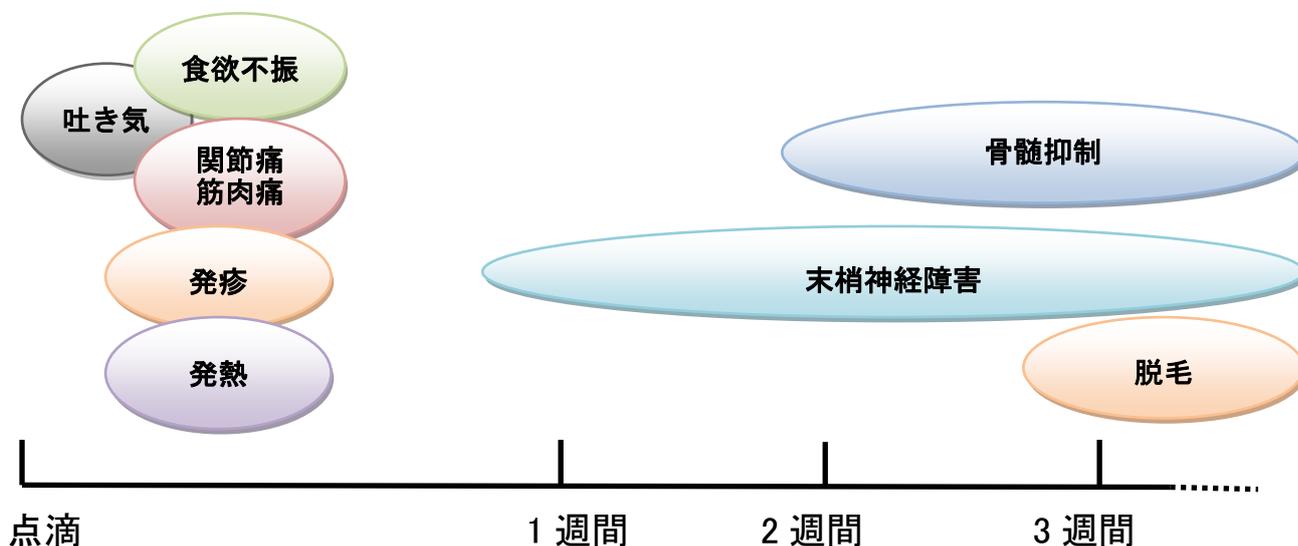
● 自覚症状があるもの

脱毛、末梢神経障害、関節痛・筋肉痛、発疹、発熱、食欲不振、吐き気・嘔吐、口内炎、疲労感 など

● 自覚症状がないもの（血液検査からわかるもの）

骨髄抑制（白血球減少・赤血球減少・血小板減少など）、肝機能障害、腎機能障害 など

1 コースの副作用の発現時期



末梢神経障害

手足のしびれ・痛み

～症状が強くなる前に早めの相談を～

症状の出る時期には個人差があります。手足に刺すような痛み・焼けるような痛みを感じたり、細かい作業がしづらくなったり、歩きにくさを感じたりする方もいます。しびれが出てから軽い症状のままで推移することもあります。症状が強くなる場合は、しびれのために治療を一時中止することもあります。

この症状は、手袋と靴下の着用範囲に起こりやすいと言われています。軽度の症状の場合、投与が終了してから数ヶ月以内に回復してくることが多いですが、症状が強い時には回復までに1年以上かかることがあります。

対策

- マッサージやしびれている部分を温めましょう。
- 外傷ややけどに注意しましょう。
- 痛みを伴う場合には、痛み止めの薬を用いて症状の軽減をはかります。
- ボタンがかけづらい、物を落としやすい、つまずきやすいなど日常生活に支障がある場合は担当医にご相談ください。

骨髄抑制

白血球の減少 ～感染症にかかりやすくなります～

白血球は体内へ細菌が入り込まないように守り、感染症を防ぐ重要な役割があります。白血球が減少すると、体の抵抗力が低下して感染症にかかりやすくなります。一般的に薬を点滴してから1週間前後に白血球の数が少なくなるといわれています。

発熱や感染症の可能性がある場合は、抗生剤を服用したり、点滴を受けたりすることがあります。また、白血球がかなり減少している場合は、白血球を増加させる薬を使うこともあります。

感染症を引き起こさないようにするため、感染しても悪化させないためにも、早めの対策を心がけましょう。

対策

- 手洗い、うがいをこまめにしましょう。
- 風邪をひいている人になるべく近づかないようにしましょう。
- なるべく人ごみを避けましょう。
- トイレの後は傷つけないようにやさしく拭いたり、ウォシュレットを使用したりしましょう。
- 歯を磨くときは口の中を傷つけないように、毛の柔らかい歯ブラシがおすすめです。
- 皮膚などに小さな傷がついた場合は、消毒薬をつけるなど十分に手当てをしましょう。



赤血球減少 ～貧血症状につながります～

めまい・立ちくらみ、冷え、だるさ、息切れ、動悸などの症状があります。

貧血の程度で、輸血を行うこともあります。

対策

- 症状がある時は、激しい運動は控え体を休ませましょう。
- ゆっくりと行動し、転倒しないよう気をつけましょう。
- めまいやふらつきなどの症状が出るため、危険な場所は避けましょう。

血小板減少 ～出血しやすくなります～

血小板は、血液を固まりやすくする働きがあります。血小板の数が少なくなると、出血しやすくなります。

血小板の数が少なくなり、出血傾向がみられる場合は、輸血を行うこともあります。

身に覚えのない内出血や血便・血尿・鼻血などが見られたら、すぐに連絡してください。

対策

- ケガや転倒の危険性がある作業はなるべく避けましょう。
- 体を洗うときに強くこすることはやめましょう。
- トイレの後はやさしく拭きましょう。
- 歯ブラシは毛の柔らかいものを使い、やさしく磨くようにしましょう。

消化器症状

～食欲不振・吐き気・嘔吐～

吐き気の症状が現れることがあります。最近では、吐き気止めの薬でコントロールできるようになっています。体調の異常を感じたら、遠慮せずに医師・看護師・薬剤師にお伝えください。



長く続くと脱水などから全身状態の悪化につながるのので、可能であれば水分補給(水・フルーツジュース・スポーツ飲料など)を心がけましょう。

口内炎 ～食べ物がしみる、痛みや歯ぐきの腫れ～

口内炎が感染症の原因にもなることがあります。口腔内を清潔に保つためにうがいをこまめにしましょう。歯ブラシは毛の柔らかいものを使い、やさしくブラッシングしましょう。食べ物は熱いものを避け、なるべく柔らかいものを食べるとよいでしょう。



症状によっては、うがい薬や塗り薬を用いることがあります。

下痢 ～脱水になる危険性も～

脱水予防のために、水分補給を心がけましょう。排便後は、強くこすらないようにし、肛門周囲を清潔に保つようにしてください。

症状がひどいときには、下痢止めのお薬を服用することもあります。

便秘 ～早めの対応を～

長期になると、食欲不振や吐き気の原因にもなります。水分を十分に取らしましょう。排便を我慢せずに十分に時間をかけて排便する、毎日同じ時間帯にトイレに座ってみるようになる、など心がけるとよいでしょう。体調がよければ適度な運動（散歩など）も効果的です。

連日排便がない場合は、状況に応じて下剤を用いることもあります。

関節痛・筋肉痛

～手足の関節・ひざの痛み～

薬を注射してから2～3日後に症状が現れ、数日以内におさまってきます。とくに背中や足の関節・筋肉に痛みを感じる人が多いです。痛みを感じはじめたら、その周囲を十分にマッサージし血液の流れをよく保つと良いでしょう。

痛み止めの薬を用いて 症状の軽減をはかることもあります。担当医にご相談下さい。

脱毛

～治療が終われば回復し始めます～

治療開始後2～3週間過ぎたころから髪の毛が抜け始めます。朝起きた時に枕についた髪の毛の量や、洗髪した時に抜ける髪の毛の量の変化で気づくことが多いようです。



対策

頭髪の量が気になる場合には、かつらやバンダナ、帽子などを使用するのも良いでしょう。シャンプーは刺激の少ないもの（弱酸性、ベビーシャンプーなど）を使用し、外出の際は直射日光を避けるために帽子や日傘を使うと良いでしょう。



orange clover

悩んだり、不安になる前に、外見に関するご心配ごとがあれば、アピアランス支援センターまでご相談ください。

※オレンジクローバーはアピアランス支援センターのシンボルマークです

その他の症状

アレルギー反応 ～気が付いたらすぐお知らせください～

ナブパクリタキセルの点滴中や終了後に、息苦しさ、発疹、血圧低下、心臓がドキドキする、胸がしめつけられる、顔がほてるなどの症状が現れることがあります。

上記の症状が出た場合には、すぐに医師、看護師、薬剤師などにお知らせください。

発疹 ～皮膚が赤くなったりかゆくなったりします～

皮膚が赤くなったり、かゆくなったりすることがあります。

症状が強い場合は、治療をお休みして様子を見ることもありますので、異常を感じたら医師・看護師・薬剤師に相談してください。



発熱 ～長引くときは感染症の可能性も～

治療を受けると3日以内に38°Cくらいの熱が出ることがあります。

長く続くときは感染症の可能性があるので、早めに連絡してください。発熱時は水分補給を心がけましょう。



疲労感 ～もともと疲れがある人は増強することも～

疲労感はいよいよ点滴当日から2、3日続く場合があります。疲れたと感じたときは、無理をせずに体を十分休ませましょう。また、体を冷やさないようにしましょう。

重大な副作用

まれではあるものの、起こると重篤になってしまう副作用を「重大な副作用」と呼びます。「重大な副作用」には次のようなものがあります。

間質性肺炎(1.4%) ～咳、息切れ、発熱 など～

日頃から自分の体調に変化がないか意識し、**風邪に似た症状**がないかどうかをチェックするようにしてください。



間質性肺炎は、頻度はごく少ないものの、ときに重い症状になる恐れがあり、特に注意すべき副作用です。

肺が炎症を起こし、機能が低下するので、息切れ・咳・呼吸困難などの症状が現れます。初期には、軽度の発熱や咳など、風邪とよく似た症状が現れることが多く、ただの風邪と見過ごされやすいことがあるので、このような症状がある場合は、自分で判断せずにすぐに医師、看護師、薬剤師などに相談してください。

疑いがあるときには、速やかに必要な検査を行い、適切な治療を行います。

その他の重大な副作用

- 脳神経麻痺: 顔面神経麻痺、声帯麻痺
- ショック、アナフィラキシー: 呼吸困難、胸痛、低血圧、頻脈、徐脈、潮紅、血管浮腫、発汗
- 間質性肺炎、肺線維症: 発熱、咳嗽、呼吸困難
- 急性呼吸窮迫症候群: 呼吸困難、低酸素症
- 心筋梗塞、うっ血性心不全、心伝導障害: 胸の痛み、不快感
- 肺塞栓症、血栓塞栓症: 胸痛、息切れ、呼吸困難
- 脳梗塞: 顔や手足の麻痺、呂律不良、めまい
- 難聴、耳鳴
- 消化管出血、胃潰瘍、腸管狭窄: 吐き気、胃痛、吐血、血便
- 腸炎: 下痢、腹痛、嘔吐
- 腸管閉塞、腸管麻痺: 食欲不振、悪心・嘔吐、便秘、腹痛、腹部膨満
- 肝機能障害、黄疸: 皮膚や目の白い部分が黄色くなる・倦怠感・食欲不振・右上腹部痛
- 膵炎: みぞおち・背中での痛み
- 急性腎不全: 食欲不振、嘔気、倦怠感
- 中毒性表皮壊死融解症(Toxic Epidermal Necrolysis: TEN)
皮膚粘膜眼症候群(Stevens-Johnson 症候群):
発熱、目の充血、くちびるのただれ、のどの痛み、皮ふの広い範囲が赤くなる
- 播種性血管内凝固症候群(DIC): 出血、動悸

このような症状が現れるのはごくまれですが、起こると重篤になってしまう恐れがあるので、気になる症状があればすぐにお知らせください。

医療費について

ゲムシタビン・ナブパクリタキセル併用療法は 2 種類の薬剤を併用した治療法で、費用は体表面積(身長・体重)によって決まります。

体表面積 (身長・体重)	1 回あたりのお薬の費用	1 回あたりのお薬の費用(3 割負担)
1.2 m ² (145cm・35kg)	132,586 円	39,776 円
1.5 m ² (150 cm・60 kg)	138,020 円	41,406 円
2.0 m ² (180cm・80kg)	201,128 円	60,338 円

※2014 年 12 月現在の値段です。

※上記は抗がん剤のみの費用で診療費や検査費などを含んでいません。

※高額医療費の支給制度については、国立がん研究センター中央病院の 1 階にある[相談支援センター](#)までご相談ください。

おわりに

治療を受けるにあたってのおねがい

～安全な治療を受けるために～

- 現在飲んでいるお薬(薬局で購入したもの)、サプリメント
- 以前にお薬の服用や注射を受けたあと、発疹やかゆみなどが出たことがあるもの
- 気になる症状、体調の変化

以上のことは、どんな些細なことでもすべて伝えてください。

また、治療を受けているすべての病院や薬局に、ゲムシタビン・ナブパクリタキセル併用療法を受けていることを伝えてください。

治療を受けているときは、不安や疑問が出てくると思います。そのようなときは、遠慮なく医師・看護師・薬剤師にご相談ください。不安や疑問を解消することで、安心して治療に臨むことができると思います。

また、体調がよいときには、散歩をする、音楽を聴くなどの趣味を楽しむことで、よりいっそうリラックスして治療を受けることができるでしょう。



こんなときには病院に連絡を！

以下のような症状があるときには、自分で判断せずに病院へ連絡しましょう。

- 水のような便が続くとき
- 吐き気や食欲不振、または口内炎で食事ができないとき
- 38℃以上の熱がでたとき
- 息切れや痰をからまない咳が続くとき
- その他、体調が悪化したとき

メモ